

平成28年度 連携・協力事業の実施状況について

教員養成専門部会

【プロジェクト名】 教育ボランティア活動

1 プロジェクトの目的・概要

佐賀大学教育学部と佐賀県教育委員会は、教員養成などを柱とした連携・協力協定の一環として、平成17年度から「教育ボランティア活動」を開始し、今年度は12年目を迎えた。受け入れ経験校からは継続して希望提出があり、学生のみならず児童生徒、教職員にとっても貴重な機会となっている。本年度は、この取り組みが県内に広がり、昨年度の196名を大きく上回る233名の派遣を実施することができた。派遣校や派遣学生、児童生徒からのアンケート結果から高い評価を得ていることがわかった。今後についても継続していくことが有意義であると思われる。

当事業の主な目的は、以下の2点である。

○教員志望の学生が、県内の公立小・中学校、特別支援学校において、授業の補助や放課後の学習相談、学校行事の補助、部活動の支援、休み時間の遊びの相手など、様々な教育活動の支援をする。

○教育現場におけるボランティア活動を通して、子どもとのコミュニケーションの取り方等についての基本的事項を身に付けることで、教職への資質や意欲を高める。

2 平成28年度の実施状況

	小学校		中学校		特別支援学校		合 計	
	派遣実績	派遣希望	派遣実績	派遣希望	派遣実績	派遣希望	派遣実績	派遣希望
学校数	40	47	25	32	3	4	68	83
派遣件数	44	52	26	33	4	8	74	93
派遣人数	142	213	80	140	11	17	233	370

(成果)

連携事業として12年目を迎え、県内の学校にも「教育ボランティア活動」事業が定着してきたこともあり、受け入れた学校からは、次年度も継続して実施してほしいとの要望がある。参加した学生は意欲的に取り組み、教育現場の支援を行った。

また、今年度は教育学部の学生に加え、他学部の教員免許取得希望の学生も対象とした。その結果、派遣学生の増加が実現できた。さらに、大学の講義の一環としての取組に位置づけることで、ボランティア保険に係る問題点が解消できた。

(アンケートより抜粋)

【派遣学生】

- ・先生方は、一人一人の児童たちの特徴をよく理解され、習熟度によって教え方や対応を変えられていました。また、児童が心を開いて先生方と話をしている姿を見て、日頃から児童理解に努められていることが分かりました。
- ・運動会の補助で、できるようになった時の嬉しそうな児童生徒の表情が嬉しかった。
- ・教員の魅力に触れた。教員への憧れの思いが膨らんだ。
- ・教員免許取得を目指すことを決めた。目標が決まり嬉しい。

【派遣校の先生】

- ・夏休み中は、学習会の学習補助でしたが、学習が上手く進んでいない生徒に声をかけたり、学習の進捗のチェックを丁寧に行ったりして積極的な活動でした。
- ・2学期が始まってすぐの繁忙期に、作品募集の整理作業してもらい、大変助かった。
- ・教育に関心が高く、生徒の質問に対して丁寧な指導をして頂いた。

【児童生徒】

- ・ゆっくり教えてもらえたので、夏休みの宿題を自分ですることができた。
- ・校内の中庭や体育館で身体をいっぱい使って一緒に遊んだことが大変楽しかった。
- ・野外炊飯では、火おこしの方法を教えてもらって助かった。
- ・天山登山や夕食作りなどたくさんのお話を一緒にできてとても楽しかったです。

(課題)

各学校から学生の派遣依頼は多いが、学生の派遣先が一部の地域や学校に偏ってしまう傾向にある。県外の自宅から派遣校へ出向く学生もおり、高額の旅費が学生負担になった事例があった。近くの学校を選択するように説明会では話しているもの、旅費への対応の課題が見えてきた。また、悪天候の為にボランティア活動が中止になるケースがあり、講義の一環で必修化した場合の学生への評価に係る不利益が生じないような手立て等の対策も必要となってくる。

3 今後の予定等

- 今年度の実施の様子を県ホームページに掲載し、県民の方々へ伝えるようにする。
- 来年度も今年度とほぼ同様のスケジュールで教育ボランティア活動を実施する予定である。
- 来年度は、できるだけ多くの市町において希望してもらい、県内全域への派遣を実現したい。
- 「教育ボランティア活動」への参加を希望する学生数の確保と、県内全域の希望する学校へ学生を派遣できる方策を更に検討していきたい。